慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	2019年度定年退職者略歴・著作目録一覧 : 伊東裕司
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2020
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.89 (2020.) ,p.101- 117
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000089-0101

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019年度定年退職者略歴・著作目録一覧

伊東　裕司（いとう　ゆうじ）

学歴
1973年3月　慶應義塾高等学校　卒業
1973年4月　慶應義塾大学文学部　入学
1977年3月　同　心理学専攻　卒業
1977年4月　慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程　入学
1979年3月　同　修了（文学修士）
1979年4月　慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻博士課程　入学
1982年3月　同　修了

学位
2005年2月　博士（心理学）（慶應義塾大学）

職歴
1982年4月　慶應義塾大学文学部　助手
1988年4月　同　専任講師
1992年4月　同　助教授
2000年4月　同　教授
2020年3月　同　定年により退職
2020年4月　慶應義塾大学名誉教授

（在外研究など）
1989年7月～1990年8月　米国カリフォルニア大学バークレー校　訪問研究者
2004年4月～2004年9月　カナダ サイモン・フレーザー大学　訪問研究者
2004年10月～2005年3月　米国クレアモント大学院大学　訪問研究者

（非常勤講師）
1988年4月～1989年3月　聖心女子大学・文学部
1989年4月～1989年9月　聖心女子大学・文学部
1999年10月～2000年3月　東京大学・文学部
1999年12月　京都大学・教育学研究科

2001 年 10 月～2004 年 3 月　日本大学・文理学部
2003 年 4 月～2004 年 3 月　聖心女子大学・文学部
2005 年 4 月～2005 年 9 月　聖心女子大学大学院
2007 年 10 月～2008 年 3 月　東京大学・文学部
2009 年 4 月～2009 年 9 月　法政大学・文学部
2010 年 4 月～2011 年 3 月　聖心女子大学・文学部
2010 年 10 月～2011 年 3 月　東京大学・文学部

（塾内役職）
1991 年 10 月～1993 年 9 月　通信教育部学生部副部長
1993 年 10 月～1995 年 9 月　通信教育部学習指導主任
1995 年 10 月～1999 年 9 月　通信教育部副部長
2005 年 4 月～2020 年 3 月　慶應義塾大学大学院社会学研究科　委員
2005 年 4 月～2005 年 9 月　学生総合センター副部長
2005 年 10 月～2009 年 9 月　学生総合センター副部長・課外活動委員長
2009 年 10 月～2015 年 9 月　学生総合センター長・学生部長
2015 年 10 月～2017 年 9 月　大学院社会学研究科学習指導委員
2017 年 10 月～2019 年 9 月　大学院社会学研究科委員長

学会役員など
1983 年～1988 年　日本認知科学会常任運営委員
1991 年～1992 年　日本認知科学会常任運営委員
1993 年～1994 年　日本認知科学会運営委員
1993 年～1996 年　日本認知科学会　編集委員
1995 年～1996 年　日本認知科学会常任運営委員
2000 年 11 月～2003 年 10 月　法と心理学会　常任理事
2000 年 10 月～2003 年 10 月　法と心理学会　常任理事
2001 年 10 月～2003 年 10 月　法と心理学会　編集委員長
2003 年 10 月～　法と心理学会　編集委員
2003 年 10 月～2006 年 10 月　法と心理学会　監事
2006 年 10 月～2009 年 10 月　法と心理学会　理事
2009 年 10 月～2015 年 10 月　法と心理学会　常任理事
2018 年 10 月～　法と心理学会　副理事長
2001 年 1 月～2003 年 12 月　日本教育心理学会　常任編集委員
2003 年 6 月～2009 年 6 月　日本認知心理学会　理事
2003 年 6 月～2009 年 6 月　日本認知心理学会　編集委員
2009 年 6 月～　日本認知心理学会　常任理事

2009 年 6 月～　日本認知心理学会　編集委員長
2015 年 11 月～2019 年 10 月　日本心理学会　教育研究委員会委員
2017 年 11 月～2019 年 10 月　日本心理学会　講演・出版等企画小委員会委員長

業績一覧

学術論文

Matsuo, K. and Itoh, Y. (2019). Difference in motivation influences mock jurors' decision and emotion; Effects of need for cognition and accountability. *Studies in sociology, psychology and education: Inquiries into humans and societies*, 87, 65–78.

島根大輔・伊東裕司 (2019). 画像リストの学習によって生起する虚回想の生起特徴の検討：DRM パラダイムを用いた実験. 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究, 87, 103–114.

Hine, K., and Itoh, Y. (2018). Warm-up cognitive activity enhances inhibitory function. *PLOS ONE* 13(10): e0206605.

Hine, K., and Itoh, Y. (2018). Reducing the negative effect of the retention interval on the composite face recognition. *The Journal of General Psychology*, 145, 296–312.

Miura, H., and Itoh, Y. (2018). The revelation effect occurs whether or not working memory is occupied. *Psychology,* 9, 204–216. doi: DOI:10.4236/psych.2018.92013

Matsuo, K., and Itoh, Y. (2017). The effects of limiting instructions about emotional evidence depend on need for cognition. *Psychiatry, Psychology and Law*, 24, 516–529. doi: 10.1080/13218719.2016.1254588

Miura, H., and Itoh, Y. (2016). The effect of the feeling of resolution and recognition performance on the revelation effect. *Consciousness and Cognition*, 45, 100–108. doi: 10.1016/j.concog.2016.08.002

Itoh, Y., Hine, K., Miura, H., Uetake, T., Nakano, M., Takemura, N., and Sakatani, K. (2016). Effect of antioxidant supplements, Pyrroloquinoline quinone disodium salt (BioPQQ TM) on cognitive functions. *Advances in Experimental Medicine and Biology*, 876, 319–325. doi: 10.1007/978-1-4939-3023-4_40

Hine, K., and Itoh, Y. (2016). Carry-over effect of processing style: From imagination task to recognition task. *Psychology* 7 781–792.

三浦大志・ 伊東裕司 (2016). 暗示が目撃者の人物同定に与える影響―単独面通しとラインナップ手続きの比較―. 心理学研究, 87, 32–39. DOI: doi.org/10.4992/jjpsy.87.14073.

Matsuo, K., and Itoh, Y. (2016). Effects of emotional testimony and gruesome photographs on mock jurors' decisions and negative emotions. *Psychiatry, Psychology and Law*. 23(1), 85–101. doi: 10.1080/13218719.2015.1032954

伊東裕司 (2015). 被害者の意見陳述は裁判員の事実認定に影響を与えるか？法と心理.

Watamura, E., Wakebe, T., Fujio, M., Itoh, Y., and Karasawa, K. (2014). The automatic activation of retributive motive when determining punishment. *Psychological Studies*, 59, 236–240. DOI: 10.1007/s12646-014-0269-3

Hine, K., and Itoh, Y. (2014). Carryover effects in face recognition: Processing mode or attentional window? *Journal of Cognitive Psychology*, 26, 98–109. Doi: 10.1080/20445911.2013.845193

三浦大志・伊東裕司 (2014). 直前の課題が再認判断に及ぼす影響：リベレーション効果の分類と挿入効果の解明に向けて. 心理学評論, 57, 511–528.

松尾加代・伊東裕司 (2013). 感情を喚起する情報が模擬裁判員の事実認定判断とネガティブ感情に及ぼす影響. 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「法と人間科学」中間報告書, 68–72.

松尾加代・伊東裕司 (2013). マインドセットと説示の効果：システマティック情報処理が判断と怒りに及ぼす影響. 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「法と人間科学」中間報告書, 73–76.

伊東裕司・松尾加代・藤田政博・淵野貴生・中川隆弘・赤坂有紀 (2013). 裁判員の事実認定における感情の影響：被害者意見陳述の影響と感情制御の効果. 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「法と人間科学」中間報告書, 77–81.

Hine, K., and Itoh, Y. (2012). Psychological distance and face recognition: thinking about own local place impairs face recognition. *Perception*, 41, 112.

三浦大志・伊東裕司 (2012). ブランド名のリベレーション効果の持続：ブロック間比較を用いた検討. 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 73, 39–48.

三浦大志・伊東裕司 (2012). 実在および架空のブランド名を用いたリベレーション効果の比較. 認知心理学研究, 10, 49–55. doi: doi.org/10.5265/jcogpsy.10.49

Hine, K., Nouchi, R., and Itoh, Y. (2011). Influence of subjective difficulty on the degree of configural and featural processing in face recognition. *Japanese Psychological Research*, 53, 246–257. doi: 10.1111/j.1468-5884.2011.00468.x

Matsuo, K., Cho, Y-H., and Itoh, Y. (2011). Effects of frustration and temporal distance on altruistic behavior. 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 71 号, 65–80.

Itoh, Y. Nakamura, S., and Miura, H. (2011). Does reducing fear with a verbal explanation improve memory of a fearful event? *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility,* 4, 197–205.

日根恭子・野内類・伊東裕司 (2010). 未来についての想像が顔の再認課題へ及ぼす影響, 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 69, 145–156.

伊東裕司 (2010). 法と心理学のまなざしと, その再検討：協働をもとめて一心理学者からのコメント, 法と心理, 9(1), 61–62.

Itoh, Y. (2010). Effects of defendant's background on lay judges' decisions, *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 3, 191–196.

Itoh, Y., Sasaki, R., Hisamatsu, T., Tachi, M., Chin, J., and Schooler, J. (2009). The verbal overshadowing effect in memory for pictures, *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 233–246.

伊東裕司 (2009). 目撃供述の信頼性：人物同一性判断を中心に. 言語, 38(9), 20–27.

伊東裕司・牧野浩子 (2009). 高齢者, アルツハイマー型認知症患者における再認記憶：複合語再認課題の記憶検査としての可能性の探求. 哲学, 121, 23–39.

山内祐子・高橋雅延・伊東裕司 (2008). 認知インタビューの有効性に及ぼす被面接者の性格特性の影響. 法と心理, 7, 83–92.

Itoh, Y, and Obinata, F. (2008). Two modes of processing in category learning, *CARLS Series of Advanced*

Study of Logic and Sensibility, 1, 233–246.

Itsukushima, Y., Hanyu, K., Okabe, Y., Naka, M., Itoh, Y., and Hara, S. (2006). Response conformity in face recognition memory. In Nilsson, L. and Ohta, N. (Eds.) *Memory and Society: Psychological perspective*. London, New York: Psychology Press, 159–169.

伊東裕司・矢野円郁 (2005). 確信度は目撃記憶の正確さの指標となりえるか. 心理学評論，48，278–293.

山崎優子・伊東裕司・仲真紀子 (2005). 裁判官および裁判員による，収集の違法性が疑われる証拠の採用・不採用が法的判断に与える影響. 龍谷大学 矯正・保護研究センター 研究年報 第 2 号，120–139.

Yuji Itoh (2005). The facilitating effect of verbalization on the recognition memory of incidentally learned faces. *Applied Cognitive Psychology*, 19, 421–433.

山崎優子・伊東裕司 (2005). 不採用証拠の存在が採用証拠の評価・判決に及ぼす影響について：社会人と学生が仮想的に裁判員になった場合の比較・検討. 法と心理，4，47–59.

伊東裕司・佐山玲子 (2005). 情動的ストレスが記憶に及ぼす効果に対する空間的中心性と内容的中心性の影響. 法と心理，4，107–116.

矢野円郁・伊東裕司 (2004). 再認記憶の確信度評定に及ぼす親近性と意識的想起の影響. 心理学研究，75，324–330.

小山舜治・伊東裕司 (2004). ケラーモデルの定性的応用と派生モデルの考察. 日経広告研究所報，215 号，23–29.

伊東裕司 (2003). 目撃供述聴取の手順と記録法. 季刊刑事弁護，No. 35, 153–156.

Naka, M., Itsukushima, Y., Itoh, Y., and Hara, H. (2002). The effect of repeated photo identification and time delay on the accuracy of the final photographic identification and the rating of memory. *International Journal of Police Science and Management*, 4, 53–61.

伊東裕司 (2001). 目撃者による人物識別と記憶再認実験. 季刊刑事弁護，25，136–139.

伊東裕司・清水まゆみ (2001). ラジオショッピングのユーザ特性と購入に関する研究：なぜ音声情報だけで購入が決定できるのか. 日経広告研究所報，198 号，22–26.

辻井岳雄・伊東裕司 (2000). 顔の認知における関係処理と要素処理：倒立効果とネガ効果の比較. 心理学研究，第 71 巻，325–330.

伊東裕司・辻井岳雄 (1998).「ながら聴取」とラジオ CM. 日経広告研究所報，180 号，8–12.

伊東昌子・伊東裕司・関野冴子 (1998). 協同プラニングと相互説明を用いた説明文産出訓練プログラムの開発と試行（共著）. 日本認知科学会テクニカルレポート No. 28.

仲真紀子・伊東裕司・厳島行雄 (1997). 裁判と心理学：シミュレーション実験によるアプローチ. 季刊刑事弁護，11, 55–64.

Naka, M., Itsukushima, Y., and Itoh, Y. (199). Eyewitness testimony after three months: A field study on memory for an incident in everyday life. *The Japanese Psychological Research*, 38, 14–24.

伊東裕司 (1996). 目撃者による人物特徴の言語記述と人物同定. 認知科学，3(1), 19–28.

伊東裕司 (1995). 視覚的記憶と言語. 日本語学，14(10), 47–55.

伊東裕司 (1995). 確率のメンタルモデルの構造と問題解決・学習. 認知科学，2(1), 26–35.

伊東裕司 (1995). ラジオスポットの接触頻度と広告効果：認知心理学的モデルを目指して. 日経広告研究所報，159 号，65–74.

伊東裕司・高山博・日比谷潤子・渡辺茂 (1995). 顔と声の関連性の判断：人物の同一性について. 哲学・第 98 集，123–139.

Yuji Itoh (1991). The role of the frequency view of probability in solving the “problem of three prisoners”. *Japanese Cognitive Science Society Technical Report* No. 19.

伊東裕司 (1988). 記憶ネットワークにおける活性伝播速度の決定因. 基礎心理学研究，6，61–65.

伊東裕司 (1988). 8 学習・教育とインタフェース. 数理科学，NO. 297, 41–45.

松本文隆・伊東裕司・小谷津孝明 (1983). テキスト記憶からの検索. 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要，23，61–75.

伊東裕司・小谷津孝明 (1981). 単文の手がかり語による再生と言い替え. 心理学研究，52，159–165.

著書

伊東裕司 (2019). 裁判員の判断の心理：心理学実験から迫る. 慶應義塾大学三田哲学会.

伊東裕司 (2017). 目撃供述の採取と評価：目撃供述をどこまで信用できるか. 佐藤博史（編）シリーズ 刑事司法を考える第 2 巻 捜査と弁護．岩波書店，99–119.

伊東裕司 (2011). 長期記憶 I ―エピソード記憶と展望記憶. 太田信夫・厳島行雄（編著）記憶と日常，北大路書房，44–68.

伊東裕司 (2010). 記憶はどのように知識になるのか. 仲真紀子（編著）認知心理学，ミネルヴァ書房，90–108.

伊東裕司 (2009). 裁判員の判断に対する感情的要因の影響. 岡田悦典・藤田政博・仲真紀子（編）裁判員制度と法心理学．ぎょうせい，196–206.

太田信夫（編）(2008). 記憶の心理学. 放送大学教育振興会.（第 9 章，第 10 章，第 11 章，第 15 章担当）

法と心理学会・目撃ガイドライン作成委員会（編）(2005). 目撃供述・識別手続きに関するガイドライン. 現代人文社.（第Ⅱ部第 4 章，第Ⅲ部第 4 章担当）

伊東裕司 (2002). 目撃証言と記憶. 井上毅・佐藤浩一（編著）日常認知の心理学．北大路書房，88–106.

伊東裕司 (1996). 第 2 部　1　思考力:育てることと評価すること. 若き認知心理学者の会 著　認知心理学者教育評価を語る．北大路書房，P52–63.

市川伸一・伊東裕司（共編著）(1996). 認知心理学を知る　第 3 版．ブレーン出版.

伊東裕司 (1995). 確率概念．吉田甫・多鹿秀継（編著）認知心理学からみた数の理解．北大路書房，143–162.

Itoh, Y. (1994). Models and problem solving: Effects of use of the “views of probability.” C. Hayes, et. al. (Eds.) Behavior Analysis of Language and Cognition. *Context Press*, 259–279.

伊東裕司 (1994). 数学の問題解決．多鹿秀継（編）認知と思考　思考心理学の最前線．サイエンス社，125–144.

伊東裕司 (1994). 記憶と学習の認知心理学. 市川伸一・伊東裕司・渡邊正孝・酒井邦嘉・安西祐一郎　岩波講座　認知科学　5　記憶と学習．岩波書店，1–43.

子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 (1992). ベーシック現代心理学　6　教育心理学．有斐閣，93–132.

市川伸一・伊東裕司（共編著）(1987). 認知心理学を知る. ブレーン出版.

伊東裕司 (1982). 記憶表象の形質と構造. 小谷津孝明（編）現代基礎心理学　4　記憶. 東京大学出版会, 107–121.

翻訳

箱田裕司・伊東裕司（監訳）(2003). S. L. Sporer, R. S. Malpass, and G. Koehnken (Eds.) 目撃者の心理学. ブレーン出版.

伊東裕司（訳）(1987). 認知科学：最初の数十年間. ハワード・ガードナー著　佐伯胖・海保博之（監訳）認知革命　知の科学の誕生と展開. 産業図書, 26–41.

口頭・ポスター発表

Itoh, Y. The effects of other lay judges' opinions given in the middle of trial on Japanese law judges' judgment. Psychiatry, Psychology and Law: Collaboration and Challenges Across the Global South 2019 Joint Conference, Singapore, November 2019.

島根大輔・三浦大志・伊東裕司. 目撃した未知顔への親近感の高さと人違いの生起確率の関係. 日本心理学会第 83 回大会, 茨木, 2019 年 9 月.

伊東裕司. 裁判員の有罪無罪判断を左右する心理的要因. 日本認知科学会第 36 回大会, 浜松, 2019 年 9 月.

Miura, H., Shimane, D., and Itoh, Y. Person misidentification is associated with cognitive failures and expectations. Annual Conference of the European Association of Psychology and Law 2019, Santiago de Compostela, Spain, July 19 2019.

Shimane, D., Tsuzuki, T., and Itoh, Y. Awareness of emotional stimuli in a video: Suppressed memory of the video. Annual Conference of the European Association of Psychology and Law 2019, Santiago de Compostela, Spain, July 19 2019.

Itoh, Y., Shimane, D., and Miura, H., Misidentification of a person as a familiar person: Is a testimony that an eyewitness saw a familiar person reliable? The thirteenth biennial conference of Society for Applied Research on Memory and Cognition, Brewster, MA, USA, June 9 2019.

島根大輔・伊東裕司. 虚回想の生起条件とそのメカニズム. 日本認知心理学会第 17 回大会, 京都, 2019 年 5 月.

Itoh, Y., Tokunaga, H., and Ujiie, H. Confirmation bias in Japanese lay judges: The effects of intermittent deliberation. 12st East Asian Association of Psychology and Law Annual Conference, Kyoto, December 2018.

Shimane, D., Matsuo, K., and Itoh, Y. Confirmation bias affects evaluations and judgements of lay judges. 12st East Asian Association of Psychology and Law Annual Conference, Kyoto, December 2018.

Itoh, Y., Shimane, D, and Miura, H. Misidentification of a person as a familiar person and reliability of eyewitness identification. 38th Australian and New Zealand Association of Psychiatry, Psychology and Law Annual Congress, Hobart, Australia, November 23 2018.

三浦大志・島根大輔・伊東裕司. 個人特性および予期に着目した人違い現象の検討. 日本認知心理学会第 16 回大会, 茨木, 2018 年 9 月.

島根大輔・伊東裕司. DRM パラダイムにおける虚回想の生起に関連する学習リストの性質. 日本認知心理学会第 16 回大会, 茨木, 2018 年 9 月.

島根大輔・松井大・伊東裕司. DRM パラダイムにおける新奇顔への虚記憶の生起過程の検討――顔刺激の形態的・評価的側面, 及び記銘者の個人特性からの体系的考察. 日本心理学会第 82 回大会, 仙台, 2018 年 9 月.

日根恭子・伊東裕司. 合成写真の時間遅延による誤認識増加の抑制. 第 23 回日本顔学会大会（フォーラム顔学 2018）, 東京, 2018 年 9 月 2 日.

Shimane, D., and Itoh, Y. Negative correlation between backward associative strength and false recognition rates for pictorial stimuli in the Deese-Roediger-McDermott paradigm. 30st APS Annual Convention, San Francisco, CA, USA, May 2018.

Shimane, D., Matsui, H., and Itoh, Y. False memory for novel faces using Deese-Roediger-McDermott paradigm: An explanation of the occurrence by morphological characteristics. The Korean Society for Cognitive and Biological Psychology, Korea, February 2018.

Shimane, D., Miura, H., and Itoh, Y. Person misidentification: Discussion on the reliability of eyewitness testimonies that testify about witnessing acquaintances. 11st East Asian Association of Psychology and Law Annual Conference, Taipei, December 2017.

島根大輔・伊東裕司. 画像・単語の DRM リストにおける逆方向連想強度の測定. 日本認知心理学会第 15 回大会, 東京, 2017 年 6 月.

島根大輔・伊東裕司. 画像リストにおける逆方向連想強度と虚再認率との関係. 日本心理学会第 81 回大会, 久留米, 2017 年 9 月.

島根大輔・三浦大志・伊東裕司. 見間違いによる人違い現象の解明に向けた研究―日誌法によるアプローチ―. 日本基礎心理学会第 36 回大会, 茨木, 2017 年 12 月.

伊東裕司・三浦大志・島根大輔 見誤りによる人違い現象の解明に向けて：目撃した人物を別の既知人物と間違える現象について. 日本心理学会第 81 回大会, 久留米, 2017 年 9 月.

Itoh, Y. Effects of emotional materials on lay judges' fact-findings. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July 2016.

Miura, H., & Itoh, Y. Examining a relation between the revelation effect and the criterion shift. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July, 2016.

Shimane, D., and Itoh, Y. False memory for pictures and words: An explanation of false memory with memory strength of list materials. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July 2016.

Itoh, Y. and Takenaka, E. Autobiographical reasoning and emotional aspects of autobiographical memory. The 6th International Conference on Memory, Budapest, Hungary, July 2016.

Miura, H. and Itoh, Y. Metacognition that a cognitive task makes a following recognition task difficult causes the revelation effect. The 6th International Conference on Memory, Budapest, Hungary, July 2016.

三浦大志・松尾加代・伊東裕司. 認知スタイルの差異が目撃者遂行型調査に及ぼす影響. 日本認知心理学会第 14 回大会, 東広島, 2016 年 6 月.

Hine, K. and Itoh, Y. Not only excitation but also inhibitory processing is carried over into the subsequent

task. The European Conference on Visual Perception, Liverpool, UK, August 2015.

三浦大志・伊東裕司. メタ認知能力を測定する記憶課題作成の試み. 日本認知心理学会第 13 回大会，東京，2015 年 7 月.

Itoh, Y., Kato, R., and Miura, H. Verbal overshadowing effect in olfactory recognition memory. The 11th Biannual Meeting of Society for Applied Research in Memory and Cognition, Victoria, BC, Canada, June 2015.

伊東裕司. 被害者の意見陳述は裁判員の事実認定に影響を与えるか？法と心理学会第 15 回大会，西宮，2014 年 10 月.

伊東裕司. 審理からの時間経過が模擬裁判員の感情と判断に及ぼす影響. 法と心理学会第 15 回大会，西宮，2014 年 10 月.

松尾加代・伊東裕司・三浦大志. 情報処理方略が模擬裁判員の判断および記憶に及ぼす影響：統制的処理は記憶を促進するか. 法と心理学会第 15 回大会，西宮，2014 年 10 月.

伊東裕司. ニオイの再認記憶における言語隠蔽効果. 日本認知心理学会第 12 回大会，仙台，2014 年 6 月.

三浦大志・伊東裕司. 視覚探索課題におけるリベレーション効果. 日本認知心理学会第 12 回大会，仙台，2014 年 6 月.

Hine, K. and Itoh, Y. The carry-over effect on recognition task. The European Conference on Visual Perception, Belgrade, Serbia, August 2014.

日根恭子・伊東裕司. 想像課題から顔の再認課題への処理の持ち越し効果の検討. 日本認知科学会第 30 回大会，東京，2013 年 9 月 13 日.

三浦大志・安田忠司・伊東裕司. 高速音声刺激による認知処理の促進. 日本心理学会第 77 回大会，札幌，2013 年 9 月.

三浦大志・伊東裕司. 手がかり再生テストにおけるリベレーション効果. 日本認知心理学会第 11 回大会，つくば，2013 年 6 月.

Matsuo, K., and Itoh, Y. Effects of systematic information processing on mock jurors' verdict decisions. The 9th International Conference on Cognitive Science, Kuching, Malaysia, August 28, 2013.

Hine, K. and Itoh, Y. Psychological distance affect on face recognition: Generalized activation model. The 9th International Conference on Cognitive science, Kuching, Malaysia, August 2013.

Matsuo, K., and Itoh, Y. Effects of victim impact statements and sympathetic photographs on mock jurors' decisions. The 10th Biannual Meeting of Society for Applied Research in Memory and Cognition, Rotterdam, Netherlands, June 29 2013.

三浦大志・伊東裕司. 手がかり再生テストにおけるリベレーション効果. 日本認知心理学会第 11 回大会，つくば，2013 年 6 月.

松尾加代・伊東裕司. 模擬裁判員の認知欲求レベルによる事実認定判断と感情喚起の違い. 第 2 回日本情動学会大会，東京，2012 年 12 月.

松尾加代・伊東裕司. 正確さに対する動機づけと認知欲求レベルが裁判員の判断に及ぼす影響. 法と心理学会第 13 回大会，東京，2012 年 9 月.

Hine, K. and Itoh, Y. Psychological distance and face recognition: Thinking about own local place impairs face recognition. The European Conference on Visual Perception, Alghero, Italy, September 2012.

三浦大志・伊東裕司. 比較判断と絶対判断の分化による誤同定の減少：犯人の目撃を想定して. 日本心理学会第 76 回大会，川崎，2012 年 9 月.

三浦大志・伊東裕司. リベレーション効果のメカニズム：メタ認知が引き起こす基準のシフト. 日本認知心理学会第 10 回大会，岡山，2012 年 6 月.

伊東裕司・三浦大志・中村咲貴・吉田彩. 恐怖感情の除去が想起に及ぼす影響. 日本認知心理学会第 10 回大会，岡山，2012 年 6 月.

Miura, H., and Itoh, Y. The revelation effect in decision making: Purchase of fictitious products. The Tenth Tsukuba International Conference on Memory, Tokyo, Japan, March, 2012.

Matsuo, K. and Itoh, Y. Impact of photograph in Victim Impact Statements for mock jurors' decisions. The 2012 Annual Conference of the American Psychology-Law Society, San Juan, Puerto Rico, March 2012.

三浦大志・伊東裕司. 事前の思い込みがラインナップ手続きと単独面通し手続きに及ぼす影響の比較. 日本認知心理学会第 9 回大会，東京，2011 年 5 月.

Watamura, E., Wakebe, T., Itoh, Y., and Itsukushima, Y. The automatic activation of retributive motive in determination of punishment. The 9th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, New York, N.Y., July 2011.

Hine, K. and Itoh, Y. The dominant processing in the encoding phase should be manipulated to investigate processing shift. The 9th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, New York, NY, July 6 2011.

Matsuo, K. and Itoh, Y. Comparing college student and adult mock jurors in decision and emotion. The 9th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, New York, NY, July 6 2011.

Matsuo, K., and Itoh, Y. How do instructions and need for cognition influence mock lay judges' decision? The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, Turkey, July 4 2011.

Hine, K. and Itoh, Y. The influence of personality judgment on configural processing in facial memory. 12th European Congress of Psychology, Istanbul, Turkey, July, 2011.

Miura, H., and Itoh, Y. The correlation between the revelation effect and working memory. The 5th International Conference on Memory. York, UK. July 2011.

Itoh, Y., Nakamura, S., and Miura, H. Release from retrieval interference by emotional stress. The 5th International Conference on Memory, York, UK, August 4 2011.

Hine, K., and Itoh, Y. Processing carry-over effect on face and non-face recognition. 5th International Conference on Memory, York, UK, August, 2011.

Itoh, Y. Individual differences in guiltiness decision and sentencing. 16th World Congress of the International Society for Criminology, Kobe, Japan, August 8 2011.

日根恭子・伊東裕司. 顔と車の再認における処理の持ち越し効果の検討. 日本認知科学会第 28 回大会，東京大学，2011 年 9 月.

三浦大志・伊東裕司. 手の運動課題が引き起こす再認判断の歪みについて：Revelation effect のメカニズム解明. 日本心理学会第 75 回大会，東京（日本大学），2011 年 9 月.

松尾加代・伊東裕司. 事実認定の原則説明方法と認知欲求レベルが裁判員の判断に及ぼす影響. 法と心理学会第 12 回大会, 名古屋, 2011 年 10 月 1 日.

Hine, K., and Itoh, Y. Carrying over effects of processing shift or attention range in a face-recognition task. The 4th International Congress on Psychology and Law, March 5 2011.

Miura, H., and Itoh, Y. Effects of a finger moving task on a recognition judgment: The revelation effect caused by the task that does not occupy working memory. The Ninth Tsukuba International Conference on Memory, Tokyo, March 2011.

伊東裕司. 裁判員制度と認知心理学. 日本認知心理学会第 8 回大会, 福岡（西南学院大学）, 2010 年 5 月 29 日.（シンポジウム　企画・司会・討論）

三浦大志・伊東裕司. 直前の挿入課題が再認判断に及ぼす影響：Revelation effect のメカニズム解明. 日本認知心理学会第 8 回大会, 福岡（西南学院大学）, 2010 年 5 月.

伊東裕司・松尾加代. 裁判員の判断に対する感情的コミュニケーションの影響：遺体写真, 被害者遺族の意見陳述は事実認定に影響するか？法と心理学会第 11 回大会, 京都（立命館大学）, 2010 年 10 月 17 日.

Hine, K., and Itoh, Y. Processing carry-over effects into a face-recognition task. The 7th International Conference on Cognitive science, Beijing, China, August 17 2010.

Matsuo, K., and Itoh, Y. Effects of gruesome photographs and victim impact statements on mock jurors' judgment. The 7th international conference on cognitive science, Beijing, China, August 17 2010.

Hine, K., and Itoh, Y. The relation between accuracy and confidence on composite picture recognition, 27th BPS Cognitive Psychology Section Annual Conference 2010, Cardiff, UK, 2010.9.6.

Matsuo, K., and Itoh, Y. Types of negative emotions induced during a mock trial. The 27th British Psychological Society, Cardiff, UK, September 6 2010.

日根恭子・野内類・伊東裕司. 未来についての想像が顔の再認課題へ及ぼす影響. 日本心理学会第 74 回大会, 豊中（大阪大学）, 2010 年 9 月.

日根恭子・伊東裕司. 顔再認への処理傾向の持ち越しに関する検討. 新学術領域研究「学際的研究による顔認知メカニズムの解明」第 2 回領域班会議, 那覇, 2010 年 12 月 23 日.

Miura, H., and Itoh, Y. Effects of immediately preceding tasks on recognition judgments: Revelation of the mechanism of the revelation effect. The Eighth Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba, Japan, March, 2010.

舘瑞恵・伊東裕司. 記憶に対する確信度評価における推測の影響. 法と心理学会大 10 回大会, 東京, 2009 年 10 月.

日根恭子・野内類・伊東裕司. 顔認知の全体的・部分的処理における主観的困難度の影響. 日本心理学会大 73 回大会, 京都, 2009 年 8 月.

舘瑞恵・伊東裕司. 目撃記憶における推測可能性と確信度と正確さの関係性. 日本心理学会大 73 回大会, 京都, 2009 年 8 月.

Hine, K., and Itoh, Y. Influence of global and local information on confidence of face recognition. The 8th Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Kyoto, July 2009.

Itoh, Y., Sasaki, R., Hisamatsu, T., Tachi, M., Chin, J., and Schooler, J. Verbal overshadowing effect

in nonverbal memory: Influence of attentional tendency while encoding of the target. The 8th Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Kyoto, July 2009.

Matsuo,K.,Young-Hee Cho, and Itoh, Y. Effects of frustration and temporal distance on altruistic behavior. The 8th Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Kyoto, July 2009.

Miura, H., and Itoh, Y. Revelation effects in recognition judgements of real-life brand names. The 8th Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Kyoto, July 2009.

Sasaki, R., Hine, K., Itoh, Y., Boyce, M., Lindsay, S., and Brimacombe, C. Evaluation of eyewitness identification evidence by student-investigators: Knowledge on own-race bias and its use. The 8th Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Kyoto, July 2009.

日根恭子・佐々木璃恵・三浦大志・伊東裕司．カテゴリー分類における呈示様式と特徴次元数の影響の検討．日本認知心理学会第 7 回大会，新座，2009 年 7 月．

日根恭子・伊東裕司．顔再認における全体的・部分的処理と確信度の関係の検討．法と心理学会第 9 回大会，名古屋（南山大学），2008 年 10 月 18 日．

舘瑞恵・伊東裕司．一般知識による予測可能性が目撃記憶における確信度と正確さの関連に与える影響．法と心理学会第 9 回大会，名古屋（南山大学），2008 年 10 月 18 日．

伊東裕司．画像の記憶における言語隠蔽効果の生起条件：符号化時の注意の方向づけとの関連．日本心理学会第 72 回大会，札幌（北海道大学），2008 年 9 月 21 日．

日根恭子・伊東裕司．顔認知における全体的情報と部分的情報の利用可能性と接近可能性：課題状況による影響の検討．日本心理学会第 72 回大会，札幌（北海道大学），2008 年 9 月 21 日．

舘瑞恵・伊東裕司．記憶の正確さと確信の強さを決める諸要因．日本心理学会第 72 回大会，札幌（北海道大学），2008 年 9 月 21 日．

三浦大志・伊東裕司．ブランド名再認における revelation effect：日常記憶に基づく検討．日本認知心理学会第 6 回大会，千葉（千葉大学），2008 年 5 月 31 日．

Itoh, Y. Two modes of processing in non-verbal memory: Verbal overshadowing and other phenomena. The seventh Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba, March 20 2008.

伊東裕司・三浦大志・薩川奈々・山崎優子・仲真紀子．裁判員の判断に被告人の職業・経歴などの情報が及ぼす影響：認知欲求との関連．法と心理学会第 8 回大会，札幌（北海道大学），2007 年 10 月 14 日．

日根恭子・伊東裕司．人物同定判断における認知的構えによる全体的情報と部分的情報の利用可能性の検討．法と心理学会第 8 回大会，札幌（北海道大学）．2007 年 10 月 13 日．

舘瑞恵・伊東裕司. 裁判員の目撃情報信頼性判断．法と心理学会第 8 回大会，札幌（北海道大学），2007 年 10 月 13 日．

舘瑞恵・伊東裕司．ヒトの記憶に対するあやまった確信はどこからくるか？：記憶における確信度と正確さの関係性を決定付ける諸要因．日本心理学会第 71 回大会，東京（東洋大学），2007 年 9 月 20 日．

Hine, K. and Itoh, Y. The role of featural and holistic information in face recognition: The influence of retention interval. The 7th Biennial Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Lewiston, ME, July 2007.

Tachi, M., and Itoh, Y. Confidence-accuracy relations in an eyewitness memory and a general memory test: Examination with free recall tests. The 7th Biennial Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Lewiston, ME, July 2007.

Itoh, Y. Confidence-accuracy relations in an eyewitness memory test and a general knowledge test: Examination with multiple-choice tasks. The 7th Biennial Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Lewiston, ME, July 2007.

日根恭子・伊東裕司. 複合語再認課題における全体情報と部分情報. 日本認知心理学会第 5 回大会，京都（京都大学），2007 年 5 月 27 日.

舘瑞恵・伊東裕司. 目撃記憶および一般知識における確信度と正確さの関係性. 日本認知心理学会第 5 回大会，京都（京都大学），2007 年 5 月 27 日.

外山昌樹・伊東裕司. 協同想起における抑制過程. 日本認知心理学会第 5 回大会，京都（京都大学），2007 年 5 月 27 日.

佐々木璃恵・伊東裕司. 自伝的記憶における検索誘導性忘却. 日本認知心理学会第 5 回大会，京都（京都大学），2007 年 5 月 27 日.

伊東裕司・小日向史成. カテゴリー学習における特徴次元数，呈示様式，呈示時間の効果. 日本認知心理学会第 5 回大会，京都（京都大学），2007 年 5 月 26 日.

高畠かほる・伊東裕司. 表情のカテゴリ判断における文脈効果の検討. 日本認知心理学会第 5 回大会，京都（京都大学），2007 年 5 月 26 日.

Kawakami, F., and Itoh, Y. Representations in change blindness. Ninth Annual Meeting of North West Cognition and Memory, Burnaby, BC, Canada, May 26 2007.

伊東裕司. 目撃証言課題における記憶の正確さと確信度の関係：一般知識課題との比較. 法と心理学会第 7 回大会，東京，2006 年 10 月.

佐々木璃恵・外山昌樹・伊東裕司・川添絢子・辻井岳雄. 顔の再認における部分・全体情報の役割：観察時間の影響. 日本認知心理学会第 4 回大会，名古屋（中京大学），2006 年 8 月 1 日.

伊東裕司・齋藤彩香・田中春奈. 顔の再認における注意の方向付けが再認成績に及ぼす影響. 日本認知心理学会第 4 回大会，名古屋（中京大学），2006 年 8 月 1 日.

川上文人・高畠かほる・伊東裕司・矢野円郁. 顔の再認に及ぼす非ターゲット顔の言語記述とイメージ想起の影響. 日本認知心理学会第 4 回大会，名古屋（中京大学），2006 年 8 月 1 日.

齋藤彩香・秋山武紀・小林正人・大平貴之・伊東裕司. 先行経験と方略選択の適応性：選択顕在性との関連. 日本認知心理学会第 4 回大会，名古屋（中京大学），2006 年 8 月 1 日.

Itoh, Y. The facilitating and interfering effect of verbalization in face recognition. 4th International Conference on Memory, Sydney, Australia, July 7 2006.

Itoh, Y. The effect of cooperative remembering on accuracy on a subsequent memory test: Analysis of conversation. 4th International Conference on Memory, Sydney, Australia, July 7 2006.

Itoh, Y. Effects of emotional stress on memory: Spatial centrality and thematic centrality. American Psychology-Law Society Conference, La Jolla, CA, March 2005.

Itoh, Y. The effect of warning against conformity on memory accuracy after cooperative remembering. The 6th Biennial Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition,

Wellington, New Zealand, January 2005.
渡辺彩香・伊東裕司. 位置判断課題における空間表象方略：実施条件の影響. 日本心理学会大 68 回大会，吹田，2004 年 9 月.
南雲美帆・伊東裕司. 事物間の関係性と事物のまとまりの判断との関係：成人における主題的関係の利用の検討. 日本認知心理学会第 2 回大会，東京，2004 年 5 月.
Itoh, Y. Interfering and facilitating effects of verbal description on face recognition. The Fifth Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba, March 2004.
伊東裕司. 話し合い，および同調に対する注意が目撃者の記憶に与える影響. 法と心理学会第 4 回大会，仙台（東北大学），2003 年 10 月 11 日.
山崎優子・伊東裕司. 証拠の採用・不採用が他の証拠の理解・判決に及ぼす影響. 法と心理学会第 4 回大会，仙台（東北大学），2003 年 10 月 11 日.
伊東裕司. 心理学における実証的研究とガイドライン.「目撃証言ガイドラインと司法改革の行方」ワークショップ 法と心理学会第 4 回大会，仙台（東北大学），2003 年 10 月 11 日.
伊東裕司. 改訂・目撃供述ガイドラインの提案. 第 7 回目撃証言シンポジウム，東京（弁護士会館），2003 年 9 月 11 日.
村瀬周子・伊東裕司. 組み合わせ情報の記憶における注意分割の効果. 第 1 回日本認知心理学会，東京（日本大学），2003 年 6 月 28 日.
柴田みどり・伊東裕司. The role of retrieval conditions in analogical reminding. 第 1 回日本認知心理学会大会，東京（日本大学），2003 年 6 月 28 日.
渡辺彩香・伊東裕司. 空間表象方略が整列効果に与える影響. 日本認知心理学会第 1 回大会, 東京（日本大学），2003 年 6 月 28 日.
伊東裕司・佐山玲子. 情動的ストレスが記憶に及ぼす影響：空間的中心性と内容的中心性. 日本認知心理学会第 1 回大会，東京（日本大学），2003 年 6 月 28 日.
矢野円郁・伊東裕司. 再認判断における確信度とソースモニタリングの関係. 法と心理学会第 3 回大会，神戸，2002 年 10 月.
山崎優子・伊東裕司. 採用されなかった証拠が裁判員の判断に及ぼす影響. 法と心理学会第 3 回大会，神戸，2002 年 10 月.
藤江瑞記・伊東裕司. 要約文章判断時の認知的プロセス. 法と心理学会第 3 回大会，神戸，2002 年 10 月.
矢野円郁・伊東裕司. 確信度評定に用いられる情報についての検討：確信度と正確さの関係に及ぼす言語化の影響. 日本心理学会第 66 回大会，広島，2002 年 10 月.
伊東裕司. 高齢者，アルツハイマー型痴呆患者における記憶結合エラー. 日本心理学会第 65 回大会，つくば，2001 年 7 月.
Itoh, Y., and Makino, H. Alzheimer patients' memory for compound words. The Third International Conference on Memory, Valencia, Spain, July 2001.
伊東裕司・辻井岳雄. 記憶結合エラーと注意：複合語の聴覚提示による検討（1）. 日本心理学会第 63 回大会，名古屋，1999 年 9 月.
辻井岳雄・伊東裕司. 記憶結合エラーと注意：複合語の聴覚提示による検討（2）. 日本心理学会第 63 回大会，名古屋，1999 年 9 月.

伊東裕司．幼児における他者の意図の理解と「嘘」概念の発達．日本教育心理学会第 41 回総会，神戸，1999 年 8 月．

Itoh, Y. Development of “lie” concept in children. The Second International Conference on Cognitive Science and The 16th Annual Meeting of the Japanese Cognitive Science Society Joint Conference, Tokyo, July 1999.

Itoh, Y., and Tsuji, T. Memory conjunction error for radio advertisements. The 3rd Biennial Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Boulder, CO, July 1999.

西谷美和・伊東裕司．顔の魅力と特異性と記憶の関係：平均顔を用いた実験．日本心理学会第 62 回大会，小金井，1998 年 10 月．

伊東裕司・辻井岳雄．注意の分割がラジオＣＭの記憶に及ぼす影響．日本心理学会第 62 回大会，小金井，1998 年 10 月．

伊東裕司．「嘘」判断における信念と意図の考慮の発達．日本教育心理学会第 40 回総会，函館，1998 年 7 月．

Itoh, Y., and Itoh, M. Learning to write expository texts by email group discussion. 18th Annual Conference of the Society for Teaching and Learning in Higher Education, Sackville, NB, Canada, June 1998.

伊東裕司．顔の再認成績に及ぼす直前の言語記述の効果：再認刺激間の類似性の影響．日本心理学会第 61 回大会，西宮，1997 年 9 月．

Itoh, Y. Memory for unattended radio advertisement. The 2nd Biennial Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Toronto, ON, Canada, July 1997.

伊東裕司．「ながら聴取」におけるラジオコマーシャルの記憶．日本認知科学会第 14 回大会，厚木，1997 年 6 月．

伊東裕司．嘘の判断の発達：ミッキーマウスは嘘をついたか？日本教育心理学会第 38 回総会，つくば，1996 年 11 月．

伊東昌子・伊東裕司．プロセスモデルに基づくテクニカルコミュニケーションの訓練法　Process-model oriented training in technical communication. 第 3 回行動主義と行動の諸科学に関する国際会議 1996 年 10 月．The 3rd International Congress on Behaviorism and the Sciences of Behavior

岡田美苗・伊東裕司．メロディーの記憶における言語記述の影響．日本心理学会第 60 回大会，東京，1996 年 9 月．

伊東裕司・辻井岳雄．顔と声の親和度判断：顔特徴の寄与の分析．日本心理学会第 60 回大会，東京，1996 年 9 月．

Itoh, Y. Do verbal descriptions of a target face improve recognition memory performance? The 26th International Congress of Psychology, Montreal, Q.C., Canada, August 1996.

伊東裕司．略地図からの角度情報の獲得：ずれの許容範囲の測定．日本心理学会大 59 回大会，那覇，1995 年 10 月．

伊東裕司．再認前の言語記述が顔の再認成績に与える影響（2）．日本認知科学会第 12 回大会，東京，1995 年 6 月．

伊東裕司．広告の記憶における媒体の誤認．日本心理学会第 58 回大会，東京，1994 年 10 月．

伊東裕司．ワープロユーザのマニュアルの構成についての知識．日本教育心理学会第 36 回総会，京都，1994 年 9 月．

伊東裕司．再認前の言語記述が顔の再認成績に与える影響．日本認知科学会第 11 回大会，福岡，1994 年 6 月．

伊東裕司．メンタルモデル利用教示が確率の学習に与える効果．日本教育心理学会第 35 回総会，名古屋，1993 年 10 月．

伊東裕司．数学的概念の多重的表象：確率の問題解決過程．日本認知科学会 R&I 研究会，1992 年 12 月．

伊東裕司．確率概念の複数の解釈と問題解決．日本教育心理学会第 34 回総会，長野，1992 年 10 月．

伊東裕司．顔の再認に及ぼす記憶処理様式の効果．日本心理学会第 56 回大会，京都，1992 年 9 月．

伊東裕司．確率の問題解決に及ぼす頻度に基づく教示の効果（2）．日本心理学会第 55 回大会，仙台，1991 年 10 月．

伊東裕司．確率の問題解決に及ぼす頻度に基づく教示の効果．日本教育心理学会第 33 回総会，札幌，1991 年 9 月．

伊東裕司．数学的概念の多重解釈．日本認知科学会第 8 回大会，1991 年 7 月．

伊東裕司．認知カウンセリングの有効性と問題点．日本教育心理学会第 30 回総会，鳴戸，1988 年 11 月．

伊東裕司．確率的問題解決における頻度論的モデルの役割．日本心理学会第 52 回大会，広島，1988 年 10 月．

伊東裕司．3 囚人問題の難しさの要因：確率的問題解決に必要な知識・技能．日本認知科学会第 5 回大会，豊中，1988 年 6 月．

Itoh, Y. Learning from text by model construction. Third International Imagery Conference, Fukuoka, September 1987.

伊東裕司．初学者における BASIC プログラミングの学習 II ―学習活動のモデル化への模索―．日本認知科学会第 4 回大会，1987 年 6 月．

伊東裕司．“メンタルモデル”は存在するか．日本認知科学会シンポジウム，1986 年 12 月．

伊東裕司．初学者における BASIC プログラミングの学習．日本認知科学会第 2 回大会，1985 年 6 月．

伊東裕司．初学者におけるプログラミング技能の習得過程．日本心理学会第 48 回大会，豊中，1984 年 10 月．

Itoh, Y. On selective spread of activation in propositional memory network. Twenty-third International Congress of Psychology, Acapulco, Mexico, September 1984.

伊東裕司．問題解決における解の判断．日本認知科学会第 1 回大会，京都，1984 年 6 月．

松本文隆・伊東裕司・小谷津孝明．テキスト記憶における情報の探索（2）．日本心理学会第 47 回大会，東京，1983 年 9 月．

伊東裕司・松本文隆・小谷津孝明．テキスト記憶における情報の探索（1）．日本心理学会第 47 回大会，東京，1983 年 9 月．

伊東裕司．命題記憶の検索過程．日本心理学会第 46 回大会，京都，1982 年 7 月．

伊東裕司・小谷津孝明．文の自然さと文型選択過程．日本心理学会第 45 回大会，東京，1981 年 9 月．

伊東裕司・小谷津孝明．文の生成における受動文・総主文の出現率と反応時間．日本心理学会第 44 回大会，札幌，1980 年 8 月．

伊東裕司・小谷津孝明．命題記憶の手がかり再生．日本心理学会第 43 回大会，東京，1979 年 9 月．
小谷津孝明・伊東裕司．文の生成過程の研究：cued generation による．日本心理学会第 42 回大会，福岡，1978 年 10 月．

その他

１．報告書，鑑定書など

厳島行雄・伊東裕司・仲真紀子・浜田寿美男．目撃証言の信用性に関する鑑定書：フィールド実験を中心に．東京高等裁判所へ提出の鑑定書，1994 年．
伊東裕司・伊東昌子．パーソナルワープロマイリポート NL3Ai の評価研究．株式会社リコーに提出の報告書，1991 年．
伊東裕司・伊東昌子．初心者用オンライン・チュートリアル作成の原則と指針．株式会社リコーに提出の報告書，1989 年．
伊東裕司．裁判の公判期日での審理を認識し，記憶するについて，メモは不可欠であるか否か．東京高等裁判所に提出の意見書，1987 年．

２．業界紙，業界誌など

伊東裕司．広告媒体の特性，制作者の勘を解明する研究に関して．読売 AD リポート ojo　1998, MAY, 18–20.
伊東裕司．CM の接触頻度と記憶の関係について：認知心理学からのアプローチ．読売 AD リポート ojo　1998, APR, 22–24.
伊東裕司．広告効果ある「ながら聴取」：ラジオＣＭ認知心理学的アプローチ．電通報　1998 年 3 月 2 日．
伊東裕司．ラジオ CM の大いなる可能性：ながら聴取におけるラジオ CM の記憶―並行課題の負荷とサウンドロゴの有無の影響．ブレーン　1998, 38(7)，53–56.
伊東裕司．文系・理系（化学系）学生についてのイメージ調査．化学と工業　1997, 50(1)，25–27.

３．その他

雑誌特集編集「特集：司法における心理学的問題」心理学評論，48(3)，2005.
伊東裕司・仲真紀子．「司法における心理学的問題」特集にあたって．心理学評論，48, 253–258, 2005.
学会誌特集編集「特集―目撃証言と記憶研究」認知科学 3(1)，1996.